

第3回蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議 議事録

1 日時

平成28年11月18日（金）午後2時から午後4時まで

2 場所

蒲郡市役所北棟集会室

3 出席者

(1) 座長

名古屋大学 大学院工学研究科 准教授 恒川 和久

(2) 委員

蒲郡市総代連合会 会長 酒井 雅幸

蒲郡市社会福祉協議会 理事 石川 たづ子

公益社団法人愛知建築士会蒲郡支部 相談役 青山 俊樹

椋山女学園大学 大学院生活科学研究科

生活科学部生活環境デザイン学科 教授 村上 心

公募 伊藤 近代

公募 水藤 麻美

4 議事

(1) 前回会議の議事録について

第2回蒲郡市公共施設マネジメント実施計画議事録の内容について承認された。議事録はホームページで公開することとする。

(2) 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画素案について

実施計画素案の第2章まで及び第3章の一部について資料に基づき事務局が説明した後、委員による議論が行われた。

(議論の内容)

ア 第1章について

- ・ 座長) 50年での人口減少率が25.9%ということがマネジメント目標設定の根拠のひとつとなっているということだが、30年間では人口はどのくらい減るのか。
- ・ 事務局) 16.5%である。

- ・ 委員) 目標設定について、人口減は 25.9%だが床面積の縮減目標は 3 割である。その理由を根拠をもって説明できるようにしておいた方がよい。
- ・ 事務局) 25.9%に上積みをして 30%にしている。説明できる資料を作成し次回会議で提示する。
- ・ 座長) 蒲郡は 1 人あたり公共施設面積は 4.53 m²で県内 38 市の比較の中で上位になっているが、競艇場と市民病院が大きな面積を保有しているのでこれを外すと 3 平米台になる。競艇場と市民病院は面積縮減の対象でないことを考えると、目標設定の計算上はこれらを除外することも考えられるのではないか。
- ・ 座長) 収入確保の観点から、サービス料 (使用料) の引き上げという考え方はあるのか。
- ・ 事務局) 現段階では具体的な検討はなされていない。
- ・ 委員) 統廃合跡地・未利用資産の売却・賃貸、市有地の住宅地への誘導による人口増加による税収増など収入を上げていく方策を検討するべきである。事業を推進していく上でのお金の裏付けがないとマネジメントの議論をしても仕方がない。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の議論と歩調を合わせていくなど、財政部局も企画や総務部局と議論をしっかりとすべき。
- ・ 事務局) 収入増については、民間活用などで実施計画の中でも触れている。ただし、このほかでも財政に寄与するのであればどんどん取り入れていきたい。
- ・ 委員) 一元管理による維持管理費縮減とは何か。
- ・ 事務局) 役所の部署ごとに予算を要求すると無駄な投資も出てくることがあり、全市的な観点から予算の優先順位をつけることで全体の予算を減らしていくことを目指していくということである。
- ・ 委員) 役所内の手続きであれば早急にできることではないか。
- ・ 事務局) 実施計画でも記載するが、組織体制を見直して来年度からでも始めたい。
- ・ 座長) 名古屋大学では、昔は学部ごとに別々に工事を発注していたが、本部で一元的に発注することに仕組みを変更したところコスト削減ができた。蒲郡市でも部署ごとでバラバラではなく一括で発注するだけでも費用が浮くのではないか。

イ 第 2 章について

- ・ 委員) 公共施設を考えていくには、税収面での議論をしないとイケない。経営は入 (いり) と出 (で) が一体で進んでいかなければならない。竹

島で複合化をして人を呼び込んで収入を得るなどの視点が必要である。役所の中で縦割りではなく企画や総務部局とも話をして連携して進めてもらいたい。

- ・ 事務局) ふるさと納税などで財務課としても収入増には工夫を行っている。
- ・ 座長) 民間との連携は、空いた土地・建物を活用するなどだけでなく、もっと攻めの姿勢でいくべきなのではないか。蒲郡市と縁の深い企業とタイアップして、お互いがさらに収入アップできる施設をつくっていくなどしたらどうか。
- ・ 委員) 竹島水族館は老朽化した建物なのに来訪者がきて採算が乗ってきたようだ。さらに道の駅を竹島に作るなど投資をしてお金を落としてもらうようにすべき。庁内で関連のセクションと調整してほしい。
- ・ 委員) 竹島はたくさんの観光客が来るようになった。道の駅を作ると、お金を落としてもらえる。
- ・ 委員) 竹島は市のふるさとであり誇りでもある。減らしていくという議論になりがちだが、減らしても仕方がないと思えるような未来を見据えて明るい気持ちになるような取り組みが欲しい。濁った水をかき回すのではなく、新しい水を入れる議論であるべき、あるところをよくして、他方では我慢するというようにして欲しい。
- ・ 委員) 水族館のそばにすばらしいトイレができた。夜もとても綺麗である。お金をかけて作ったのだからもっと活用できるようにして欲しい。
- ・ 委員) イベントをするとたくさんの人数が集まる。水族館の近くでイベントを実施するなど工夫すればよい。
- ・ 委員) 競技場と武道館は建て直しを考えているのか。
- ・ 事務局) 競技場については、場所は未定であるが、市民と協議の上あり方の検討を進めている。
- ・ 委員) 土地は購入するのか。
- ・ 事務局) 購入という選択肢はあるが、市内に適当な土地が新たに見つからないため、既存の市有地の活用で議論が進んでいると聞いている。
- ・ 委員) 蒲郡市の担当課や施設管理の職員は、危機感を持っているのか。市民に負担のしわ寄せが行くことをどう認識し、また市民のニーズをどこまで本気で聞こうとしているのか。大きな土地が空くのなら庁内一丸となって、企業誘致に動くなどしたらどうなのか。
- ・ 事務局) 職員の意識を高めるために、研修会などを実施している。少しずつ意識改革を進めていく一方で、大きなことに取り組むための力強い組織力も必要と認識している。現在、庁内では投資する先を厳選して、

縦割りを超えて取り組んでいこうという議論もしている。

- ・ 委員)「株式会社がまごおり」として経営感覚を持って取り組みを進めて欲しい。サービス料の値上げという話が先ほど出てきたが、安くて生活しやすい市であって欲しい。
- ・ 委員) たまたま保有している財産のみをいじることがマアセットマネジメントではない。市の全体の財産を対象に、コスト縮減だけでなく企業誘致など入りの議論、攻めの戦略を、市の職員が危機感や経営感覚をもっていくこと。これらについて、きちんと計画に文言として入れて欲しい。
- ・ 事務局) 次回までに検討して報告できるようにしたい。
- ・ 座長) 施策に関連する部局の名前を計画書に入れて欲しい。具体的に書かないと実行力が担保できない。

ウ 第3章について

- ・ 委員) 南部市民センターはどのような役割なのか。
- ・ 事務局) 市民センターは市役所の分署的なもので、これまで4つのうち3つ廃止して南部市民センターが残った。今後、市民センターはなくす方向性。ただし、同じ建物に入っている公民館としては今すぐなくすという議論にはなっていない。「若者まちづくりミーティング」で南部市民センターを見学してもらい、積極的な意見をたくさんいただいている。
- ・ 委員) 公民館は今後必要だと思うが、利活用については今後どうしていくべきなのか。
- ・ 事務局) 公民館は社会教育施設であるが、限られた方々の趣味の活動の場になっているなど本来の目的からずれて使われている側面もある。これからも公民館が必要か真剣に考えていかななくてはならない。
- ・ 委員) 蒲郡公民館で交通安全などの行事をしようと思っても予約が取れないことがある。女性のサークルなどの無料の利用が7割くらいある。
- ・ 事務局) 学校の部屋を共有化して使ってもらうなど他の空間利用も考えていくべき。
- ・ 委員) 住民のお金でまかなう集会所と公民館の役割は違うのではないか。今後仕分けが必要ではないか。
- ・ 委員) 高齢化により集会所の役割は大きくなる。高齢者が乳母車を押して歩いていける位置に、避難所としても存続しているべきである。施設には炊事場とトイレが必要である。
- ・ 委員) 公民館活動は無料である。自分も使っており申し訳ない気持ちになることもある。ある程度受益者も負担をしていくべきではないか。
- ・ 委員) 受益者が負担すべきという考えの人は少ない。公民館のあり方を

議論すると有料化の話がよく出るがいつも先送りになる。高齢者が元気であれば、かえって全体としての費用は安くつくという意見もある。

- ・ 委員) 地区利用型施設について、地区の拠点づくりは結構だが、30年の間ずっと同じ施設であることはない。市民のニーズが変わったらあり方も変わっていくことを書くべきである。
- ・ 委員) 全市利用型施設について、計画書全般に明るいところが感じられない。必要な施設は積極的に整備していくことを記載するべき。
- ・ 事務局) 次回までに考えたい。
- ・ 座長) 全市利用型施設と地区利用型施設のどこが量として大きいのか、圧縮しないといけないのはどこなのかを明らかにすべき。全市利用型施設は重点地区を作ることをエリアマネジメントとして明記するべきである。また、計画書には書けないかもしれないが、公共施設はおしゃれであることが魅力の創出につながり望ましい。
- ・ 委員) 次回会議では施設種別ごとの方針も示されるとのことだが、種別ごとの議論になると、各所管部局の縦割りの意見になりがちであるので注意して欲しい。
- ・ 委員) 縦割りは困る。PDCAサイクルを回して各部署ごとの実績を管理するべきである。